

## 茅ヶ崎西浜高等学校 令和6年度始業式

日 時 令和6年4月4日（木）9：30

場 所 体育館

皆さん、おはようございます。今日から令和6年度が始まります。1学年進級し、新しいクラス、始まりのとき。4月は環境の変化にそわそわし、落ち着かないことがあるかもしれませんが、変化は成長のチャンスでもあります。この緊張を成長に変えてください。

3月の修了式では、皆さんに、追検査の時によく協力してくれましたね、とお礼を伝えました。今日はその修了式、離任式で私が感じたことをお伝えしたいと思います。一言でいうと、皆さんの聞く姿勢がとてもよかったということです。本校を去られる先生方のお話を、直接教わっていない先生もいらしたはずですが、敬意をもって聞いていました。それが伝わってきました。ご挨拶いただいた先生方も気持ちよく西浜を去ることができたことと思います。

人の話を敬意をもってきちんと聞ける。これは大人になるためにとても大切なことだと考えます。

さて、今日は、大人になるって何だろう？ という問いを皆さんに投げかけます。成年年齢が引き下がり、現在は18歳で成年となります。3年生は在学中に成年です。では、大人になるってどういうことでしょうか。先日、朝日新聞の天声人語にこんな掲載がありました。

「大人になる、って何だろう。物分かりがよくなって、ケンカをしないことだろうか。あるいは何でも自分でできて、誰かに迷惑をかけないことだろうか。」ある弁護士の方のお話です。

「彼女の事務所にある日、5歳の男の子がやってきた。お母さんとの相談が終わり、帰る時のことだった。『次に来るときは、もっと大きくなっているかな』そう言われて、男の子はにっこりし、大きく手をあげた。『やさしくなるよー』その瞬間、まるで魔法使いが杖をふり、魔法をかけたようだったと弁護士の方は振り返る。『彼にとって、大きくなることは、やさしくなるということ。私には衝撃でした』誰もが年を重ねるごとに、やさしさを増す社会があったら、どうだろう。想像してみる。金メダルがとれるようになるのも、勉強ができるのも素晴らしい。だけど、そうでなくてもいい。何かができる、できないに縛られた生き方は、窮屈でたまらない。」

人にやさしくなれるのは、自分に余裕のある人だと私は思います。自分にいっぱい  
いっぱいだと、相手のことを考えるゆとりはありません。子どもは自分が成長するこ  
とに必死です。世界の中心にいるのは自分です。上手くいかないとかんしゃくを起こ  
し、時に相手を攻撃したりもします。

相手の気持ちを想像し、人の話を敬意をもって聞くためには、まず自分にゆとりが  
生まれるように、身边をコントロールし、心身ともに穏やかに保つことが必要です。  
それが大人になるということでしょうか。だから、やさしくなれるのです。

私はこれまで、大勢のやさしい人たちに出会ってきました。そういった方たちに助  
けられてきました。ですが、自分自身がやさしいかという、はなはだ自信がありま  
せん。「人は何歳になっても、大人になれる。どこまでも、やさしくなれる。大人とは、  
そう信じ、もがき続ける存在だろうか」と天声人語は締めくくられていました。私も  
もがき続けたいと思います。

今日から新年度。新2年生、新3年生が、それぞれ大人になることを目指して、高  
校生活を過ごしてくれることを願います。

これで私の話は終わります。